

JAIPA Report

Vol.4
2026.Oct

定時総会

2026年 JAIPA定時総会（第26回）開催

【定時総会の開催概要】

去る2026年6月24日、主婦会館プラザエフにおいて「第26回 JAIPA定時総会」を開催いたしました。当日は多くの会員の皆様にご出席いただき、会場の座席はほぼ満席となる盛況ぶりでした。

【議事審議と結果】

開会宣言に続き、久保会長より開会のご挨拶が行われた後、以下の5つの議題について審議が執り行われました。

- 第1号議案：2025年度事業・部会活動報告（案）承認の件
- 第2号議案：2025年度決算報告（案）承認の件
- 第3号議案：2026年度事業・部会活動計画（案）承認の件
- 第4号議案：2026年度予算（案）承認の件
- 第5号議案：2026年度理事交代（案）承認の件

いずれの議案についても、ご出席いただいた皆様より満場一致で承認を得ることができました。総会は終始活発な雰囲気にも包まれつつもスムーズに進行し、今後のJAIPAの活動に対する会員の皆様からの高い期待と熱意が感じられる場となりました。



【懇親会の開催と今後の展望】

総会の終了後には、引き続き同会場にて懇親会が開催されました。会場ではご来賓の方々からのご挨拶をいただいたほか、広報PR部会より10月出版予定の書籍出版プロジェクトについての紹介が行われました。会員相互の親睦や情報交換が深まり、2026年度に向けたさらなる盛り上がりを見せて盛会裏に閉会いたしました。



主な行事一覧

https://www.jaipa.or.jp/active/active_index.php

- 5月28日(木)～29日(金) 第61回JAIPAの集いin静岡
- 6月24日(水) 2026年第26回定時総会
- 7月8日(水)～11日(土) ICTフォーラム2026 in 対馬
- 8月6日(木)～8日(土) モバイル部会 夏合宿@野反湖
- 9月18日(金) 地域ISP部会 in 新発田

役員一覧

<https://www.jaipa.or.jp/about/director.php>

会員企業一覧

<https://www.jaipa.or.jp/member/>

全国プロバイダー一覧

<https://www.jaipa.or.jp/isp/>

イベント報告

第61回 JAIPAの集い in 静岡

開催日：2026年5月28日（木）・29日（金）

場 所：ツインメッセ静岡 北館4F レセプションホール

協 力：株式会社TOKAIコミュニケーションズ、NPO法人ふじのくに情報ネットワーク機構（FINO）

後 援：静岡県、静岡市、東海総合通信局、静岡県警察本部

協 賛：株式会社TOKAIコミュニケーションズ、株式会社イブリオ、InfiniCloud株式会社、GMOグローバルサイン株式会社、株式会社Geolocation Technology、テルストラ・ジャパン株式会社、BBIX株式会社、株式会社ミライコミュニケーションネットワーク、（ドリンクスポンサー：株式会社Jストリーム、株式会社ファミリーネット・ジャパン）

参加者：263名

28日（木）セミナー209名、懇親会189名

29日（金）セミナー211名、懇親会101名

<https://www.jaipa.or.jp/topics/2026/04/61jaipain.php>

2026年5月28日(木)・29日(金)の二日に渡り、「第61回 JAIPAの集い in 静岡」がツインメッセ静岡にて開催され、計263名もの大変多くの方にご参加いただき無事終了いたしました。

プログラムでは、青島文化教材社や静岡市によるプラモデルを通じたまちづくり・地域振興の取り組みをはじめ、鉄道敷光ファイバーという新たな選択肢、災害時の代替手段としての衛



星インターネット活用、静岡県警察によるサイバーセキュリティの取り組み、国産ガバメントクラウドへの挑戦、放送と通信の融合、インフラシェアリングの現在地、そしてAIエージェントが変える情報インフラの展望など、今後のインターネット業界を見据えた多岐にわたるテーマについて発表・議論が熱く行われました。

また、「事務方というお仕事」のやりがいや気概を語るセッションや、新規入会会社の紹介、各種WG（ゲーム・エンタメNW接続性課題検討WG、AI-WG、セキュリティWG）やNPO法人FINOの活動紹介等も行われ、参加者同士の知見の共有と交流を深める充実した時間となりました。

両日のセッション後に開かれた懇親会では、静岡の銘酒（「開運」「磯自慢」「正雪」）や地元のお茶も振る舞われ、セミナーからの盛り上がりそのままに新たな交流の場となりました。

ご参加いただいた皆様、「JAIPAの集いin静岡」の準備にご



尽力くださったプログラム委員の皆様、各登壇者様、協力・協賛会社・後援の皆様、そして事務局に深く感謝いたします。

広報PR部会

副部会長 井口 和彦

イベント報告

ICTフォーラム 2026 in 対馬

開催日：2026年7月8日（水）～11日（土）

場 所：対馬市交流センター 会議室

協 賛：GMOグローバルサイン株式会社、株式会社ベイカレント・コンサルティング、スキヤリティ・ジャパン株式会社、三井物産セキュアディレクション株式会社

<https://www.jaipa.or.jp/topics/2026/04/ict2026-in.php>

初対馬開催となった今年の「ICTフォーラム2026 in 対馬」は、総勢96名の会員および関係者の皆様にご参加いただき、大盛況のうちに終えることができました。国境の要衝として歴史を重ねてきた対馬の地で、皆様と一堂に会して深く意見を交わすことができたことを、大変嬉しく思っております。



特に今回のフォーラムで実感したのは、この1年で「AIを取り巻く環境」が驚くほど変化・進化していることです。メインテーマ「Telecommunication × Deepfake

× Security」のもとで行われた講演では、デジタルインフラ戦略やガバナンスをはじめ、ディープフェイク対策、安全保障や認知戦の脅威に至るまで、AIがもたらす「光と影」が多角的な視点からリアルに語られ、参加者の皆様が熱心に耳を傾ける姿が非常に印象的でした。

また、国境離島・対馬ならではの地政学的な視点も本フォーラムの大きな魅力でした。歴史を紐解く海底通信ケーブルのお話や、対馬を「デジタル実験の島」と位置づけた地域活性化の取り組みなど、インフラの強靱化と地方創生の新たな可能性を再認識する貴重な学びとなりました。さらに、開館したばかりの対馬博物館の見学や島内歴史ツアー、美味しい地元の食を囲んだ懇親会を通して、立場を超えた温かい交流と強固な絆が生まれたことも大きな成果です。

準備から運営まで温かく導いてくださった小山委員長をはじめとするプログラム委員の皆様、スポンサー企業の皆様、そしてJAIPA事務局の皆様の多大なご尽力に心より感謝申し上げます。今回の対馬で育んだ素晴らしい繋がりと得られた知見を、今後の日本のインターネット産業の発展とレジリエンス強化にしっかりと活かしていけたらと思います。

広報PR部会 部会長 橋本 ゆり



部会報告

インターネットユーザー部会

インターネットユーザー部会では、利用者保護とインターネット市場の健全な発展の両立を目指し、利用者の視点に立った課題の検討や情報共有を行っております。

近年、電気通信サービスを取り巻く環境は大きく変化しており、オンラインによる契約手続の普及やサービスの多様化が進む一方で、利用者に対する説明の在り方や苦情相談への対応など、事業者求められる役割も変化しております。当部会では、総務省の消費者保護政策委員会における議論を注視しながら、制度改正や運用の見直しに関する情報共有を行っております。また、必要に応じて利用者保護と事業者の実務の両面を踏まえた意見表明を行うこともございます。

会員各社が様々な法改正対応で直面する課題や疑問、また業務の中で発生する苦情や相談への対応方法について率直な意見交換を行い、法改正対応や苦情相談の削減、利用者満足度の向上につながる取組について検討しております。特に近年は、DXの進展に伴う消費者保護の在り方や、利用者に分かりやすい情報提供の重要性が高まっており、事業者間での知見共有の意義も一層大きくなっております。

さらに、消費者団体との勉強会や意見交換も継続して実施しております。こうした取組を通じて、事業者と利用者双方の理解を深めることに努めております。

利用者保護と事業活動の両立という課題について、今後も会員各社と議論を重ねながら、より良い市場環境の実現に向けて取り組んでまいります。同様の課題意識をお持ちの会員の皆様にご参加いただければ幸いです。

インターネットユーザー部会 部会長 高木 大一郎



部会報告

行政法律部会の活動について

行政法律部会は、毎月1回、中旬～下旬の水曜日の16時から、インターネットに関連する法制度やガイドラインなど、およびその運用を中心に、情報交換を行っています。会議はオンラインがメインですが、参加者は30人を超え、多いときは60人を超えるなど、非常に大きな部会になりました。

現在は発信者情報開示請求（情報流通プラットフォーム対処法に基づく開示請求）について、各社とも件数が膨大になっていることと、前回の改正から5年後の見直しに向けて政策の議論が進んでいることから、各社の現状や報道事例などの情報交換などに、活発に取り組んでいます。

また、オンラインカジノサイトへの国内からのアクセスをブロックすることが議論となった際は、部会を中心に、総務省の会議でのヒアリングでの発表や意見書の提出などを行いました。

この他、違法情報への対策についても、削除等のガイドラインへの新たな類型の追加を検討するなど、状況の変化に合わせた取組みを行っています。

部会では、時々総務省の担当課をお招きして、政策や事業者の実務など、率直な意見交換も行っています。

言論空間としてのインターネットの健全な発展は、もちろん

法律も大事なのですが、わが国ではそれを補完する通信事業者のガイドラインなどに支えられるところも大きく、他の通信事業者団体とともに、JAIPAもその一翼を担っています。その中心となって働くのが、毎月の行政法律部会といっても過言ではありません。

法律という専門的に見えるテーマではありますが、インターネットのサービスを運営する事業者にとって、実は身近であり、ネットの成長と切っても切り離せないテーマでもあります。

毎月の部会においても、特別な前提知識は不要で、誰でも気軽に質問や発言ができる運営を目指していますので、気軽にご参加ください。

行政法律部会 部会長 野口 尚志



部会報告

地域 ISP 部会

2026年9月の地域ISP部会是新潟県新発田市にお邪魔する『地方開催』となりました。普段は他の部会やワーキンググループ同様に代々木の事務所に集まっていますが、「年に一度くらいは部会に参加している企業の地元を訪問しよう」ということで、昨年の特定非営利活動法人ゆーとびあネット（秋田県湯沢市）訪問に続き、今年は株式会社新潟通信サービス（NCOM社）を訪問することとなりました。

部会の前にNCOM社の設備を見学させて頂けるとのことです。9月18日（金）の13時に新発田駅に集合しました。駅名が読めずに2駅先まで行ってしまった人や電車の乗り継ぎを甘く見て遅刻した人（私）がいましたが、天気にも恵まれ、最高の見学日和となりました。7名の参加者が本間社長と山田さんの車に分乗し、NTT新発田局舎内の共用架・自前架や、NCOM社の電柱とそこに設置された独自FTTH用ボックス（屋外用ラック）を見せて頂きました。いずれの設備も非常に興味深いものでしたが、特に屋外に設置されたラックの設置時は勿論、その後の維持管理でも苦労されている点を井上さんが説明すると、参加者から感嘆の声が上がっていました。「ボックスのところにハチが巣を作っちゃったことがあって… どう対処するのが良いんですかね?」「マメに見に来るしかなさそうですね」といった普段の部会では聞くことの無いようなやり取りも聞かれ、非常に興味深い『大人の見学会』となりました。個人的にはNCOM社の社屋にお邪魔できな



かったのが残念でしたが、そちらはまたの機会ということで見学会はお開きとなりました。

16時から『割烹 北辰館』

の一室をお借りし、NCOM社の皆さんと一緒にオンラインで部会に参加しました。最初の議題としてNCOM社の本間社長による同社の歴史・事業をご説明いただきましたが、部会前の設備見学で事前知識を得ていたこともあってよく理解できました。“地域の事業者あるある”かもしれませんが、NCOM社も10名強で24時間365日の運用保守を行うために、設備の多重化などで障害が起きてもすぐにサービスが停止しないように工夫しているというお話しが印象的でした。



部会終了後は別室に移動し、NCOM社の方々との懇親会になりました。美味しい料理に話しが弾み、あっという間に時間が過ぎていきました。余りに盛り上がったためか、飲み放題だったことも気づかなかったくらいです。これも『地方開催』ならではの、かもしれませんね。

NCOM社の皆さん、ご多忙中でご準備・ご対応いただき誠にありがとうございました。改めて厚く御礼申し上げます。またお会いできる日を楽しみにしています。

地域ISP部会 植田 裕之

部会報告

「ISPルーターメーカー連携SWG」の活動紹介

「回線ですか?」「ルーターですか?」。お客様には、その境界線は見えません。

◆はじめに

JAIPAと一般社団法人デジタルライフ推進協会（DLPA）は、インターネット利用者の利便性向上と課題解決、そして双方の事業貢献を目的に「ISPルーターメーカー連携SWG」を定期開催しています。会合は、メンバー企業やJAIPA会議室をお借りし、毎月ハイブリッド形式で実施しています。ISPとルーターメーカーが同じテーブルにつき、実務的な改善を重ねています。

◆設立背景と課題意識

通信の高度化に伴い、IPoEやIPv4 over IPv6など接続方式も多様化しました。一方、接続トラブルが起きると「ISP回線」なのか「ルーター機器」なのか、切り分けるのは容易ではありません。その結果、問い合わせがISPとルーターメーカーの窓口を行き来する事態が発生しています。お客様にとって、サポート窓口の「ラリー」解消は急務となっています。

もう一つの課題は、サポートが終了した古いWi-Fiルーターが使い続けられていることです。見た目は正常でもセキュリティ面にはリスクが潜んでいます。「動いていても安全ではありません」。

◆主な取り組み

本SWGでは、この二つの課題に対し、次の二本柱で改善を進めています。

・「ISP接続方式一覧」の整備とサポート連携

JAIPAの「全国プロバイダー一覧」を更新して、各ISPの提供サービス、PPPoE/IPoE対応、IPv4 over IPv6の接続方式などを標準化して共有する「ISP接続方式一覧」を整備中です。ルーターメーカー窓口でも各ISPの接続環境を踏まえたスムーズな初期案内を可能にし、“たらい回し”から“適切なバトンパス”への転換を目指します。

・古いWi-Fiルーターの見直しと啓発活動

サイバーセキュリティ月間に合わせ、「古いWi-Fiルーターの見直しプロジェクト」等を実施しています。官公庁や関係団体の後押しも得ながら、Webサイトや各種メディアを通じて、安全なルーターへの買い替えと適切な運用を呼びかけています。「まだ動く」から「安全に使える」へ判断基準そのものをアップデートしていきます。

◆会員の皆様へ

「つながるのが当たり前」を維持・発展させるため、今後も安全で快適なインターネット環境の実現に向けて活動を続けてまいります。引き続き、会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

ISPルーターメーカー連携SWG主査 長田 成人



政策動向／業界動向

情報流通プラットフォーム対処法

情プラ法（正式名称「特定電気通信による情報の流通によって発生する権利侵害等への対処に関する法律」）について、衆議院付帯決議を元に、施行後5年見直しの議論が始まりました。総務省殿においては第9回「デジタル空間における情報流通の諸課題への対処に関する検討会」（2026年5月11日）において配下に「発信者情報開示ワーキンググループ」を設置する事を決定し、同ワーキンググループを2026年6月1日から今年9月まで実に7回というハイペースで開催しています。会議は非公開で実施し資料は当日・議事録は後日に公開するという形で進められ、次の3項目に分けて議論が進行中です。

1 令和3年改正で創設した裁判手続の実効性確保

提供命令の実効性確保、手続の更なる合理化・迅速化による発信者特定の不奏功の回避

（提供命令が迅速に履行されるためにどのような対応策が考えられるか、アクセスプロバイダの多層化により手続が長期化している現状にかんがみ、手続の迅速化・円滑化のために考えられる事項はあるか等）

2 発信者情報開示請求への対応の合理化

プロバイダの手続への関与の在り方の合理化、開示請求件数の増加に伴うプロバイダの負担軽減

（必要なプロバイダの主張立証の機会を確保しつつ手続の合理化を図るためにどのような対応策が考えられるか、プロバイダによる発信者情報開示請求への対応の円滑化の観点から、プロバイダの発信者情報開示請求手続への関与の在り方や負担軽減について、どのような対応策が考えられるか）

3 手続の過程で得た情報の適切な取扱い

手続の過程で得た情報を用いた新たな権利侵害の発生の防止

（新たな権利侵害の発生の防止の観点から、発信者情報開示請求の請求者及び発信者それぞれの情報の取扱いについて、どのような対応策が考えられるか）

議論は年内の取りまとめを目指していると思われしますので、引続き、議論結果を注視して行きたいと考えております。

情報通信のセキュリティ

近年、ランサムウェア攻撃等のサイバー攻撃の巧妙化や、攻撃インフラの複雑化が進展しており、こうした脅威に対し、一層実効的な対策を講じていくことが重要な課題となっています。総務省では、電気通信事業者をはじめとした関係主体がサイバーセキュリティの確保のために講じる対策の在り方について検討することを目的として、「巧妙化・複雑化するサイバー攻撃への対策の在り方に関する検討会」を設置し、2026年内の取りまとめを目指して2026年5月に第1回会合を開催、2026年7月に中間論点整理案を出す迄に至っています。

又、家庭用IoT機器を悪用するレジデンシャルプロキシ(※)の問題が顕著となって来たことから、総務省及び警察庁は、国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）等と連携し、家庭用IoT機器を悪用したサイバー攻撃への対策を推進するための検討を進め、官民で組織された「レジデンシャルプロキシ対策アライアンス」を設立しました。家庭用IoT機器がレジデンシャルプロキシとなる経緯には様々な場合が存在すると見られ、その中には機器の利用者が機器を悪用されている事態を認識していない場合も多くあり、レジデンシャルプロキシの実態を家庭用IoT機器利用者に知って頂く必要がありますが、複雑・巧妙な手口でIoT機器のレジデンシャルプロキシ化が行われている現状を踏まえると、業界団体・電気通信事業者・セキュリティ事業者等の多岐に渡る主体が社会的責務を認識しながら連携し、社会全体でその抑止にあたる必要がある、といった考えに基づきます。

情報通信のセキュリティの観点では、メール基盤事業者やレンタルサーバ事業者のシステムへの不正アクセス等、情報通信のセキュリティに関しては非常に頭の痛い問題ですので、引続き皆様のご知見を頂きつつ、対応していければと考えております。

（※）家庭用（レジデンシャル）のIPアドレス帯域を使ってサイバー攻撃の中継が行われること

宇宙通信

総務省では2024年2月に「宇宙通信アドバイザリボード」を設置しました（直近では2026年7月に開催）。これは、2023年6月に閣議決定された「宇宙基本計画」を背景として設置された国立研究開発法人宇宙航空開発研究機構の「宇宙戦略基金」への基金造成を行い、当該基金事業を含め、総務省における宇宙通信政策の効果的な推進に当たり、有識者から助言を得ること等を目的としたものです。一部の国際系の通信事業を除いて、私たちにとってまだ普遍的なものではありませんが、視野を広げる観点でウォッチするのも良いかと思いますが、紹介します。

政策WT 主査 濱谷 規夫

会員企業紹介

◆ 株式会社TOKAIコミュニケーションズ

当社は1977年の創業以来、TOKAIグループの情報通信事業を担ってまいりました。1996年にインターネット接続サービスを開始し、本年で提供開始から30周年を迎えます。自社保有の光ファイバーネットワークとデータセンターを基盤に、個人のお客様へは「@T COM (アットティーコム)」「TNC」やMVNO「LIBMO」を、法人のお客様へはネットワーク・クラウド・システムを柱としたサービスを提供しています。

本年7月には、コンシューマサービスの新ブランドコンセプト「『安心・安全』の安らぎを、ずっとあなたのそばに。」を策定しました。サービスの性能や機能による

違いが見えにくくなるなか、30年の事業経験を礎に、安定した運用体制と確かな品質、店舗・電話・オンラインの各窓口によるきめ細やかなサポートで、長く選ばれ続ける存在を目指してまいります。

この節目にあわせ、30周年記念サイトを公開いたしました。日頃のご利用への感謝を込めた記念プレゼント企画やキャンペーンを順次実施するとともに、お客様からいただいた声をサイトへ掲載し、サービスの改善とブランド価値の向上につなげてまいります。

これからも「暮らしに社会にもっと笑顔を。」の想いのもと、変わらない毎日を支

える通信事業者として、安心・安全をお届けしてまいります。

30周年記念サイト



<https://www.tokai-cs.ne.jp/30th/>



TOKAICOM

<https://www.tokai-com.co.jp/index.php>

◆ 株式会社ハイネット

株式会社ハイネットは、青森県八戸市を拠点に地域密着型のインターネット接続サービスや関連事業を提供しています。

1996年5月に、地元・八戸商工会議所青年部のメンバーが中心となって地域振興を目的に設立されました。

当時は流行もあったのか、地域型モバイル電話会社（現：コミュニティーFM会社）、地域型貿易商社なども先に設立されており、当社を含めて現在でも存続しています。

2001年からユーザ独自のドメイン名を

利用したウェブ&メールサービスの提供を始め、2003年からネットショップ運営やネットショップ代行サービスを開始しています。

ネットショップは、地元でも、自社独自に大手モールと契約して自社スタッフだけで運用できたり、公的機関の支援を受けてショップを立ち上げて運用開始される個人法人様も多数おられますが、すべてがそのような方ばかりではありませんので、当社でサポートさせていただく事もございます。



今後も設立当初の目的である地域振興を忘れずに、地元の個人法人向けにサービスを提供していきたいと思えます。

◆ さくらインターネット株式会社

さくらインターネットは、1996年に創業したデジタルインフラ企業です。レンタルサーバー事業から始まり、自社運営の国内データセンターを基盤としたクラウドサービスやAIインフラへと事業領域を広げ、2026年12月に創業30周年を迎えます。

「『やりたいこと』を『できる』に変える」という企業理念のもと、インターネット黎明期より、お客さまのニーズや時代の変化に応えながら成長を続けてまいりました。その中で、データセンターの運営からサービス開発、技術研究、運用、販売、サポートまでを一貫して担えることを強みに、お

客さまの挑戦や価値創造を支えています。

近年は、パブリッククラウド「さくらのクラウド」をはじめ、生成AI向けクラウドサービス「高火力」、マネージドサーバーコンピュータ「さくらONE」、生成AI向けビジネス基盤「さくらのAI」など、国内のデジタル基盤を支えるサービスを拡充しています。また、2026年には国産企業として初めてガバメントクラウドサービス提供事業者へ採択されました。

創業30周年を迎えられることに感謝し、これからもお客さまやパートナーの皆さまとともに、社会を支えるデジタルインフラ



の発展に貢献してまいります。

<https://www.sakura.ad.jp/corporate/>



北海道石狩市に所在し、開所15周年を迎えるデータセンター。堅牢な設備を備え、再生可能エネルギー100%で運用。

新規入会会員紹介

■ミック株式会社

<https://www.meeq.com/>

■株式会社イージェーワークス

<https://www.ejworks.com/>

■株式会社Waipuna

<https://waipuna.co.jp/>

(2026年7月～9月)

～ People People ～

みなさま、はじめまして。Blackwall株式会社の細谷と申します。このたびは「People People」コーナーにお声がけいただき、大変光栄に思っております。

私は現在、日本国内のホスティング事業者様に向けて、自社製品である「Blackwall」の提案営業を行っております。実は、日本国内における営業担当は私一人という体制のため、日々北から南まで全国各地を飛び回っております。今回はこの場をお借りして、私の仕事に対する想いや、プライベートの素顔について少しお話しさせていただきます。

弊社Blackwallは、エストニア発のBot制御に特化した強みを持つプロダクトです。近年、Botによるトラフィックは人間によるトラフィックよりも多くなってきており、悪意のあるBotによる攻撃は劇的に高度化・複雑化、Webサイトのパフォーマンス低下や情報漏洩のリスクなど、インフラを担う事業者様にとって非常に頭の痛い問題となっております。

こうした脅威からお客様の大切なインフラを守るのが私のミッションです。日本でただ一人の営業というプレッシャーはありますが、その分、全国各地のホスティング事業者様と直接お会いし、最前線の課題や生の声をヒアリングできることに大きなやりがいを感じています。また、出張先でご当地の美味しいものを味わうのも、密かな楽しみの一つです。

ここからは少しプライベートなお話をさせていただきます。休日の息抜きの一つは、ゲームです。特にFPS（シューティングゲームですね）をこよなく愛しています。一瞬の判断ミスが命取りになる緊張感や、チームメンバーとの連携、マップを把握して有利な立ち回りを考える戦略性は、どこか現在のビジネスにも通じるところがある……かもしれません。

実際は、純粋にエイム（照準合わせ）の技術を磨き、オンラインで友人と談笑する事に熱中してリフレッシュしています。

そして、私の人生を語る上で欠かせないのが「サッカー」です。幼稚園の頃からボールを蹴り始め、今でもサッカーを愛してやみません。中でも、鹿島アントラーズの熱狂的

なファンです。アントラーズのレジェンドであるジーコ氏が掲げた「献身・誠実・尊重」という『ジーコスピリッツ』は、私の人生観そのものと言っても過言ではありません。チームのために汗をかく「献身」、ルールや仲間、そして自分自身に対する「誠実」、相手をリスペクトする「尊重」。この3つの精神は、現在の営業活動においても常に胸に刻んでいます。お客様の課題解決に向けて惜しみなく動くこと、決して嘘をつかず誠実なご提案をすること、そして共にビジネスを創り上げるパートナー様への深い敬意を忘れないこと。これらはすべて、サッカーから学んだ大切な教訓です。

長々とプライベートの話をしてしまいましたが、

ホスティング業界の皆様が提供するインフラは、現代社会において必要不可欠な基盤です。

皆様のお力があって、これまで私達が悠々自適に生活できたと言っても過言ではないと思っております。

その安心・安全を「Blackwall」を通じて微力ながらお支えし、共に日本のインターネット環境をより良いものにしていきたいと強く願っています。JAIPAのイベントや全国のどこかでお会いした際には、ホスティングやセキュリティといったお仕事の話はもちろん、FPSやサッカー談義や、美味しいお酒をご一緒にできれば幸いです。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします！

Blackwall株式会社 細谷 海童



information

JAIPA書籍出版プロジェクト

『インターネットは空から降ってこない』
刊行のお知らせ

【はじめに】

一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会（JAIPA）広報PR部では、我が国のインターネット黎明期から今日に至る30年の歩みを記録し、その志を次世代へ継承することを目的として書籍出版プロジェクトを進めてまいりました。制作を無事完了し、株式会社インプレスより2026年10月14日に全国刊行いたします。

制作にあたり、ご多忙の中で貴重なインタビューや資料提供にご協力いただいた関係各位、取材にご対応いただいた皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

【書籍について】

AIが当たり前になった現代、私たちはスマホひとつで世界とつながる時代を生きています。

ですが、ふと考えたことはありませんか？

「このインターネットは、一体誰が、どうやって支え、育んできたのだろう？」と。

インターネットは、巨大企業や国家から与えられた便利なサービスではありません。

スマホやPCの画面の向こう側には、技術の可能性を信じて現場で地道に回線を繋ぎ、未知の危機に直面しても仲間と手を取り合って築いてきた挑戦者たちの歩みがありました。

本書は、1990年代の草創期からブロードバンドの普及、そしてAI時代に至るまで、日本のインターネット30年の軌跡をテンポよく辿るノンフィクションです。

■本書で描かれる「3つの軌跡」

【技術】自分たちの手で創り上げたインフラ

インターネットは最初から用意されていたものではありません。技術の可能性に魅了された人々が夢中になり、手探りでネットワークをつなぎ合わせてきた30年の歩みを紐解きます。

【ルール】「安全・安心」に向けたルールづくり

誹謗中傷や著作権トラブルなど、成長するネット社会で

生じる課題に直面する中、「表現の自由」や「通信の秘密」を守りながら、誰もが安心して使えるルールをどう創り上げてきたのかを明かします。

【連帯】未曾有の危機を乗り越えた現場の力

ネットを支えるのは設備だけではありません。東日本大震災をはじめとする未曾有の災害においても、事業者たちが手を取り合い、「通信という生命線」を守り抜いた現場の強い絆を描きます。

■AI時代を主体的に生き抜くヒントが、ここにある

AIの進化により、多くの作業が自動化されていく現代。

だからこそ今求められているのは、仕組みの背景を理解し、ルールを整え、人と人をつなぎ合わせる力です。

正解のない未知の領域に挑み、今日のインフラを創り上げてきた先人たちの経験と視点は、これからの時代を自立して歩むための確かな指針となるはずです。

インターネットを支えてきた挑戦者たちの30年を、ぜひ本編でお確かめください。

【書籍情報】

書 名：『インターネットは空から降ってこない ～社会をつなげ続けた30年と挑戦者たちからのエール～』

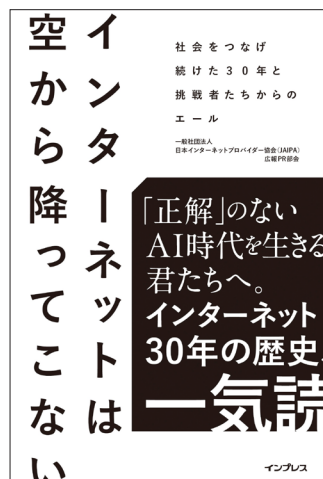
著 者：一般社団法人 日本インターネットプロバイダー協会（JAIPA）広報PR部

出版社：株式会社インプレス

発売日：2026年10月14日予定

本体価格：単行本/電子版：1,650円（税込）

Amazonでの購入はこちら



「JAIPA Report Vol.4」では、静岡の集いの紹介や部会・WGの紹介、そしてついに発行された書籍「インターネットは空から降ってこない」の紹介など、盛りだくさんの内容となりました！

書籍制作はジョージさんを中心に進められましたが、構成検討からインタビュー・執筆、挿絵や装丁の検討まで、本当に幅広い対応が必要だったようで、書籍を一冊作り上げることの大変さを感じました…。部会でワイワイとサブタイトルの案出しや、表紙デザインの選定をしたのは良い思い出です。

ぜひお手にとりいただき、ご感想をいただけると幸いです。

また、今回のJAIPA Reportも、部会長Hさん、事務局Tさんを中心に、多くの皆様のご協力のおかげで作成することができました。Reportの感想や「こんな内容を取り上げてほしい」といったリクエストも、ぜひお寄せください！

広報PR部会 鈴木

JAIPA Report 2026 Oct. (Vol.4)

2026年10月5日発行

□発行

一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会（JAIPA）

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-36-1 オダカビル6F

TEL：03-5304-7511 FAX：03-3379-5530

URL：https://www.jaipa.or.jp/ E-mail：info@jaipa.or.jp

□編集

広報PR部会・事務局

□制作・印刷

フジサービス株式会社

〒105-0014 東京都港区芝2-20-8

